

情報連絡員報告総括表（令和5年4月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	3	1		1	3		2	2		1	3		1	3			4		1	3		1	3		2	2					
	繊維工業	2		1		2	1	2	1			3			2	1		2	1	1	2		1	2		1		2				
	木材・木製品			1		1				1			1			1		1				1		1				1				
	紙・紙加工品	1		1	1		1	1		1	1		1			2		2				2		2			1	1				
	印刷		1			1			1			1				1		1				1			1			1				
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		2	1		3		2	1		1	2			2	1		3			3			3			2	1				
	鉄鋼・金属			1			1		1			1				1		1				1		1				1				
	一般機器		1	2	1	1	1	3				3			1	2		3			2	1		3			1	2				
	電気機器			1		1			1			1				1			1			1		1				1				
	輸送機器		1		1			1					1		1			1				1			1			1				
その他																																
	小計	6	6	8	4	12	4	11	7	2	3	14	3	1	9	10		18	2	2	10	8	2	16	2	3	6	11				
非 製 造 業	卸売業	1	1			2		2				2			1	1		2		X					2			1	1			
	小売業	1	3	2	1	5		3	3			5	1		3	3		3	3						6			4	2			
	商店街		1			1		1				1			1				1						1			1				
	サービス業		3	1	X	X	X		4			4			3	1		3	1						4			3	1			
	建設業		3	1					4			4			3	1		3	1			3	1					4			3	1
	運輸業	1										1			1			1				1						1			1	
	その他		1	1								2			2			2				2						2			2	
	小計	3	12	5		1	8		6	14			18	2		14	6		14	6					20			15	5			
	合計	9	18	13	5	20	4	17	21	2	3	32	5	1	23	16		32	8	2	10	8	2	36	2	3	21	16				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年4月～令和5年4月)

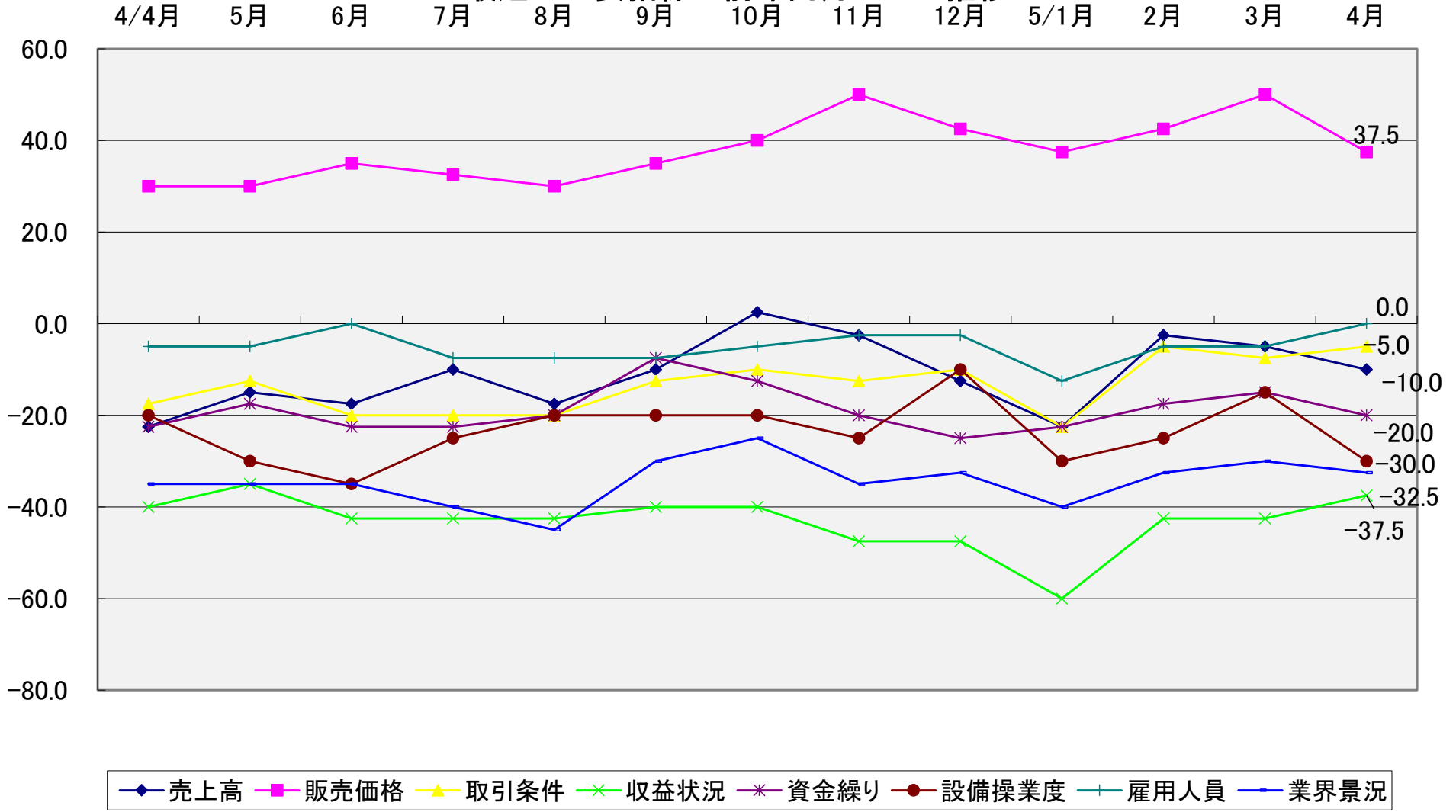
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	4/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	増減
売上高	-22.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-10.0	2.5	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-10.0	-5.0
販売価格	30.0	30.0	35.0	32.5	30.0	35.0	40.0	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	37.5	-12.5
取引条件	-17.5	-12.5	-20.0	-20.0	-20.0	-12.5	-10.0	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-5.0	2.5
収益状況	-40.0	-35.0	-42.5	-42.5	-42.5	-40.0	-40.0	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	-37.5	5.0
資金繰り	-22.5	-17.5	-22.5	-22.5	-20.0	-7.5	-12.5	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	-20.0	-5.0
設備操業度	-20.0	-30.0	-35.0	-25.0	-20.0	-20.0	-20.0	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	-30.0	-15.0
雇用人員	-5.0	-5.0	0.0	-7.5	-7.5	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0	5.0
業界景況	-35.0	-35.0	-35.0	-40.0	-45.0	-30.0	-25.0	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	-32.5	-2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。今年度は例年並みの収穫が得られ、ほぼ例年並みの漬け込みが行われている。年明け以降もほぼコロナ前の生産で推移している。 また、販売状況においても、コロナウイルス規制の緩和に伴う、旅行者の増加などにより、お土産物の需要がかなり回復してきており、コロナ前の状況に戻ってきている。一方でウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出ており、特に電気代が約50%値上がりしており経営を圧迫している。2023年度三重県漬物協同組合の通常総会4月19日に行われた。また、東京ビッグサイトにおいて4月27日～29日に「漬物グランプリ2023」が行われた。
	醤油味噌	4月に入ったが、特に大きな変化はなく生産状況も落ち着いている。原材料価格は相変わらず不安定な状況で量の確保が優先となるとコスト管理が難しい。政府のコロナ対策の緩和で、経済活動が元に戻りつつあるが、人々の生活環境・考え・消費行動は以前とは様変わりしている。そのような中で事業者が淘汰され、生き残った事業者が今後、事業を継続していくために世の中の変化に対応していく必要がある。当組合は、組合員の事業継続のためのサポートを今年も行っていき、組合員の要望にできるだけ沿えるよう情報提供や課題解決に努力していく。
	他に分類されない食料品製造業	学校給食費の無償化が進んでいるが、当組合地区では未だ中学校給食の無償化は実施されていない。親達は早期実現を望んでいる。
	製麺	県からの小麦の委託事業を9月から3月まで取組み、7事業者より製品開発を17品目作っていただいた。業務用の生ラーメンをはじめ、冷やし伊勢うどん、季節の商品(さくらきしめん、よもぎ細うどん等)を製品にさせていただき、お客様にもこの夏の製品として決定していく事を願っている。今回の企画は業界にとって刺激をいただき、製品開発になると思った。感謝している。
繊維工業	衣料縫製	諸物価の値上がりにつき、全ての物の値段が上昇した。電気料金は2倍以上になり、ガソリン、ミシン部品系とともに経営を悪化させている。そのうえ、人件費の上昇もあり工場としては厳しい。
	テントシート	例年この時期は他の時期と比べると売上は少ないが、近頃の物価の上昇は大変厳しい状況である。
紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため原料確保が課題である。
	古紙	4月の仕入量：段ボール・約95±3%、新聞、チラシ・約92±5%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約93±5%である。5月8日以降のアフターコロナとゴールデンウィークのインバウンドに期待したいが製紙会社の生産予定は激減で、製紙原料古紙の発注量は20%前後のマイナスである。4月からの60時間以上の残業割り増し賃金50%増しと夜間残業の割り増し対応はしたが、集荷量の改善は期待できない様子である。円安で製品原紙の輸出はあるものの、国内の人口移動のみと大都市圏や有名観光地のインバウンド波及効果のみの感じであり、地方は当てはまらない。生産者人口の働き盛りの国民が海外赴任で国内経済や生活を支えていただいていることは有難く感謝する次第であるが、毎年数パーセントずつの国内消費の累積マイナス成長は痛い所である。
印刷	印刷	①三重県より受託している三重県民手帳の売上の中から、(公社)三重県緑化推進協会へ、収益の一部を寄付した。 ②3月末で組合員の脱退が9社あり、組合運営の基軸となる賦課金収入が今年度大きく減少している。廃業、事業譲渡、組合活動が重荷となって自社事業活動への影響、また事業縮小等の理由が挙げられる。そのような中、四日市市において1社加入の動きがある。 ③4月期においては、年度内発注明けによる発注減がみられるが、反動は今まで以上に感じられる。また、資材・エネルギー価格の影響による発注部数減、長らく続いた新型コロナウイルスによるデジタル化への移行もあり、紙需要に代わりデジタル媒体への要望も聞かれるようになってきた。
窯業・土石製品	伊賀焼	集客や注文等は少しずつ回復しているように感じる。ただ、原材料や燃料費の値上がりは少しずつ業者を苦しめているような状況にある。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は3月と比べ若干ではあるが増産傾向にあった。ただ、自動車関連は半導体不足がある程度解消したにも関わらず、ラインの停止等があり減少傾向が続いている。その他の部分に関しては増産傾向にあるものの、原材料の高騰、エネルギー価格の高騰(ガス、重油、電力料)が続き、収益圧迫の原因となっている。半導体関連は4月に入っても減少傾向が続き、夏場までこのような状況が続くものと思われる。

製
造
業

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
一般機器	四日市市	各企業により濃淡があるが総じて需要、業績は停滞気味である。半導体不足や紛争の長期化による仕入価格、電気代、燃料費の上昇や自動車関連が未だ低調なことが理由である。コロナ5類への移行にしたがって様々な規制が解除され、以前のビジネス活動に戻れることは良いニュースであり、ここから工業製品の需要増、設備投資につながっていくことを期待したい。
	津市	昨年よりは悪いものの、1月～2月に比べると受注が戻ってきた感じがする。長期内示では6月以降で増える見込みとの情報があるが、新型コロナが5月8日から5類に移行するため、感染者の推移によりどのように影響するか予測できない。また、電気料金は少し下がったように思うが、2年前と比べるとまだまだ高く、厳しい状況が続くと思われる。
	伊勢市	部品不足、モノ不足が解消し半導体不足も改善されてきたが、需要は減少し注文も減少してきた。海外進出している自動車関連は良くなっているが国内の落ち込みは大きく、設備投資も抑えられている。年明けからの売上減少、仕入価格の上昇は続いている。
電気機器	鳥羽市	新年度となり、4月は期首であることから受発注は20%減と落ち込んでいる。半導体関係の受発注も急激に減少している。今後の明るい兆しを期待している。
小売業	青果	野菜前半：雨の影響等で一部値上がりしたが、全体的に価格は落ち着いている。じゃがいもは鹿児島県産が悪天候で入荷が激減し、価格が急上昇した。キャベツも入荷がやや減り、安値から価格を戻している。きゅうり、ミニトマト、ブロッコリーはやや安い。 野菜後半：玉葱は平年よりやや安値である。激高だったじゃがいもも落ち着いてきた。月末には入荷も増えお値打ちになっているので、新じゃがのいろいろな料理を楽しんでもらいたい。キャベツ、白菜、人参は高値である。トマト、ミニトマト、きゅうりはお手頃である。 果物前半：県内産いちごの入荷は順調で、やや味は落ちてきたが、お買い得である。県内産のデコポンも終盤になり、甘夏は今が旬で味も良く、食べ頃である。 果物後半：県内産いちごは終盤になり安い。いちごジャム等に最適である。県内産の甘夏、カラーオレンジは今がお手頃で美味しい。熊本県産スイカの入荷が増え味も良い。熊本県産のメロンは旬のピーク前に荷動きも良く、価格も安くなってきた。
	自転車	令和4年度の県内自転車販売台数(防犯登録件数)は、3月末締めで6万8千台(昨年とほぼ同数)となった。3年余り苦しんだコロナ禍がようやく落ち着きを見せ、人出の回復に期待が高まる中、新学期が始まった。各店舗の展示商品も通学車から電動アシスト自転車、一般婦人車、スポーツ車等へと様変わりしたようである。この時期、昨年にはなかった一部メーカーの車輪リコールが発生し、それに携わる店も多く見られる。修理部門においては、入荷する度に様々な部品(例サドル、タイヤ、チューブ等)価格の20%以上の上昇はユーザーへの料金転嫁が出来ていない状況の店が多くいる。また、4月から自転車利用者はヘルメット着用努力義務化となり、商品の入荷遅れが心配なところである。
	電器	年度が変わり、家電製品全体の売れ行きは三重県省エネ家電キャンペーンが延長した事もあり昨年より伸びているようである。ただ、局所的には4月に入り動きが止まったという声も聞く。商品の仕入価格と販売価格はまだ値上がり傾向のようで、コロナ以前の感覚にはなかなか戻らない状況が続くと思われる。ただ、家電製品に関しては故障すれば修理や買い替えの需要は必ず高まるので全く止まるというわけではない分、徐々に商品の動きは落ち着くと思われる。
	石油	第60回中小企業団体三重県大会及び第75回中小企業団体全国大会に提出する要望事項並びに三重県知事・三重県議会等に対する要望事項について下記のとおり提出した。 ①合成燃料を「2035年乗用車100%」の選択肢として追加要望 ②官公需適格組合及び中小企業等に対する官公需施策の拡充・強化に対する要望 ③全国でいわゆるSS過疎地問題が顕著化されつつある。山間部等の人口現象地域においてSSの廃業等が発生した場合、自治体等がSSの存続について行政問題として自ら取り組むを求める要望 以上3項目について要望書を提出した。
	スポーツ	当業種は、この時期は学校用品の販売で多忙であった。5月に入ると新入生を含む新クラブ生のユニフォーム等の発注が続き、更に5月末のインターハイ予選に合わせる受注もあり多忙が続く。特に高校の各クラブの納品時期は全国共通なので、メーカーとのコンタクトを入念におかないと納品が困難になる。大会の開催もコロナ以前に戻りつつあるので、ビジネスチャンスをつかめるよう組合員に連絡を取っている。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年4月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
商店街	熊野市	昨年の同時期に比べ、相当活気は戻ってきている。ただし物価の高騰等で消費はそれほどまで伸びていないのが実情である。特にこの時期に歓送迎会が例年なら多い飲食関係は厳しい状況のようである。市内の観光地は久しぶりに活況のようで、外国人観光客も徐々に増えつつある。
サービス業	旅館	「おいでよみえ旅クーポン」(2月10日～3月24日)による集客効果が強力であっただけに終了後はその反動で春休みが終わったこともあり、4月は閑散とした日が続いた。前年同月比は80～90%、コロナ以前の2019年同月比は50～60%程度であった。地方の観光地より都会の有名観光地がインバウンドも日本人観光客も急激に増えているような現象を見ると、何らかの対策が必要なのかと考えさせられる。
建設業	総合工事業	令和4年度県内建設企業の公共工事の受注状況 令和4年度県内建設企業の公共工事受注額は、1,331億82百万円(対前年度比2.3%減)であり、過去3カ年の最低額であった。特に国の発注工事では、対前年度比31.4%減であり、約7億円の減額であった。このように県内の公共工事の受注を中心とする建設企業にとっては、非常に厳しい状況が続いている。地域別では、桑名地区では対前年度比19.2%減、尾鷲地域では19.5%減と大きな減額となった。
	内装工事業	新年度となったが、例年この時期はスタートダッシュは良くないこともあり、対前年同月比はマイナスとなってしまった。本年度はコロナの影響はほぼなくなると予測され、業況がプラスに転じると思われる。
	水道工事業(亀山市)	令和4年度の売上高は前年比で減少した。今年度も委託業務を受注した。量水器委託について例年と同じで、漏水委託については今年は減少傾向であり、そのため前年比で売上高が減少している。今後の見通しは、今年度も前年並みの売上高であると思われる。
運輸業	トラック	軽油価格は2月、3月は若干値下がり傾向で推移してきたが、4月に入ってから値上がり傾向となっており、今年1月の水準に戻りつつある。電子・デバイス部門は依然として需要減が続いており、関連する輸送も減少傾向が続いている。自動車関連については、半導体不足がようやく解消しつつあるため、トヨタ自動車、ホンダ技研とも増産体制にあることから関連する輸送も順調に伸びている。スーパー、小売については先月末から売上が若干増え始めていることから、関連する輸送も増加傾向にある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品製造業	事業継承について準備を始めなければいけないと思っている。準備期間等について、教えてもらいたい。
食料品	製麺	今回の業務事業で業界の発展につながったように思う。現状はまだまだ厳しい状況であるが、前向きに捉えていきたいと思う。
繊維工業	衣料縫製	技能実習3号の技能検定2級(実技試験)を県内で実施できるようにして欲しい。
一般機器	四日市市	コロナ5類への移行による制約の解除、インバウンド需要で経済が上向きぎざしとなることを期待したい。工業製品の需要の停滞は2023年内は続く見込み、物価や光熱費さらに人件費の増大も見込まれる。今後の状況を注視しながら、きめ細やかな支援をお願いしたい。
サービス業	旅館	割引がなくなり冷え込んでいる状況を見ると、需要喚起策を早急に行ってもらわないと5月、6月、7月前半が厳しくなると心配している。夏休みは年末年始と同様に割引がなくても集客は可能と考える。そこまで繋がるような対策を早急に行うように要望する。